

## 名護市エコツーリズム/グリーンツーリズム推進事業 「平成19年度 ガイド養成講座」 事業報告書

対象者：名護市在住でエコツーリズムに興味のある方、これから始めようとする方  
参加者：14名（定員30名）  
会 場：名護市中央公民館  
日 時：2008年3月19日（水） 10:00～17:00  
参加費：2,000円（教材・保険代含む）  
後 援：名護市商工観光課  
協 力：名護市観光協会 名護市商工会 JA おきなわ北部地区本部営農センター  
広 報：市民の広場・新聞広報等・図書館や公民館にチラシの設置  
指 導：がじゅまる自然学校指導員・自然体験活動推進協議会（CONE トレーナー）

### 1. 背 景

現在、沖縄の観光が沖縄ブームにのり18年度の観光入込数は565万人と堅調な伸びをしめしている。一方、航空各社の施策や原油高騰により年々航空運賃が値上がりをしている。この影響により教育旅行（修学旅行）の入込数は06年度43万6500人 07年度42万人と4%の減少見込である。

現在の旅行スタイルのニーズが過去のバスでの旗振り景勝地めぐりの観光から、1箇所に留まり時間をかけた体験・滞在型の観光や個人でレンタカーを利用した観光にシフトしてきている。県の施策でもエコツーリズムを活用した観光へのシフト進んできている。旅行社の商品でも着地方観光（現地についてから観光先を決める欧米等の海外で通常行われているスタイル）にシフトしてきている。

では、名護市の観光はどうであろうか、本島北部に位置する名護市はやんばる地域の入り口として発展してきた。高速道路の終着地・休憩地点としては発展したが市街地や商業施設・自然・文化は通り越され、本部町の「美ら海水族館」や「やんばるの大自然」への通過ポイントになってしまっている。名護市は東シナ海、羽地内海、太平洋の海を臨み、名護岳、嘉津宇岳、多野岳に囲まれるすばらしい自然に囲まれている。また、多くの人口を有し、多彩な文化も根付いている。しかし、大きな都市ゆえに大きなお祭りやイベントが開催されていた為にエコツアーやエコツーリズム・グリーンツーリズムに関しては後進地域になってしまった。

## 2. 時 勢

次年度の予算でも都市と地域の交流や、地方再生の予算組みがされてきている。

総務省・文科省・農林水産省連携

『子ども農山漁村交流プロジェクト』 ~ 120万人・自然の中での体験活動~

総予算 500 億円

文部科学省 主幹：スポーツ・青少年局青少年課

『青少年体験活動総合プラン（拡充）』

平成 20 年度概算請求額 714 百万円

（平成 19 年度予算額 246 百万）

事業開始年度 20 年～事業達成年度平成 24 年迄

農林水産省

『農山漁村共生・対流事業（継続事業）』 ~ オーライニッポン~

など各省庁次年度に向けて概算要求を出している。今後も都市部と農村の交流を図りながら「地域再生」のキーワードの下、活性化していく事業である。中央各省庁も公募型・提案型（プロポーザル方式）での事業になりつつある。今後、名護市においても官民協力して時勢の波に乗って行かないといけない。

## 3. 目 的

名護市でエコツーリズムを導入する事により以下のメリットがあげられる。

- 1) 地域に落ちる旅行者の消費額が大きくなる。
- 2) 今まで見向きもされなかった物が観光資源に変わっていく。
- 3) 1次産業、2次産業が 3次産業（観光産業）になる。
- 4) 地域雇用が生まれる。
- 5) 地域住民は観光客が来ることにより地域を再認識し誇りを持った町作りが行われる。

本講習会においてはエコツーリズムに関心のある方々に広く呼びかけを行い。エコツーリズムの理解の促進を図る。また、今後発展していく名護市のエコツーリズムの横断的なネットワーク構築の礎になればと考える。

## 4. 講習内容

### 【タイムテーブル】

9:30～10:00	会場準備・受付開始	
10:00～10:40	SS1 目標・目的の共有化	はじめに本講習のゴールの設定を行う
10:40～10:20	SS2 エコツーリズム概論 地域になぜエコツーリズムが必要か	最近聞くようになった。「エコツーリズム」とは何か理念を理解し、名護に必要なのかを探りましょう。
11:20～12:00	SS3 自然体験活動の意義	自然体験活動の理念を紹介します。「なぜこんな活動が必要なのか？」を皆さんで考えましょう。
13:00～14:30	SS4 伝える技術 (インタープリテーション)	ツアーを行うにあたって必要な部分「伝える技術」の基本を参加者自らワークショップ形式で体験していきます。
14:45～15:25	SS5 安全管理 (危険予知トレーニング)	ツアーで起こしてはいけないのは事故。未然に防ぐ為の安全管理について防止の観点から学ぶ。
15:35～16:10	SS6 先進地事例の紹介 沖縄での事例、全国での事例	先進地(県内・県外)での事例を紹介し名護でのヒントにする。
16:20～17:00	SS7 ふりかえり	

【持ち物】 筆記用具・動きやすい服装

## 5. 講習会風景



真剣な眼差しで講習を受けています



会話形式の講習会



グループになりワークも行いました



参加者からの活発な意見もありました



ワークショップ形式は学びが多いのが特徴



ワークの発表をまとめて検証をしています



輪になり研修の成果発表



次回の開催日程の調整まで行いました

## 6. おわりに

今回の講習会において市内・今帰仁村・本部町・うるま市からエコツーリズムに関心のある市民の方が14名集まった。現在、ボランティアでガイドをしている方から市民農園を運営している方、農業をされている方、JA職員、観光業従事者、等々・・・異業種の方々の参加があった。参加者の方々は関心も強く質疑応答の時には活発な質問等が出ていた。

通常の講習会であると終了した時点でその後の繋がりが無くなってしまふのが普通であるが、今回の講習で学んだことを形にしていきたいと言う声が多くあがった。事務局は参加者の声を汲み取り今後も有志で集まりの場を作ることを提案した。

次回以降は親交を深めると共に名護市におけるエコツアーモデルプランの企画・及び実施等の今後の方向性に関しての話し合い・役割分担・会の名称などを決めていく予定である。集まりに関しては月1回程度の会合を予定。場合によっては複数回行うこともありえる。次回日程は4月13日13:00より講習会参加者の施設(LAND SYMPHONY:宜保伸さん)にて行う。

問い合わせ・申込先

〒905-1143

沖縄県名護市真喜屋500-1

がじゅまる自然学校 浅子 智昭(あさこ ともあき)

TEL&FAX 0980-58-1852

E-mail gajumaru@wens.gr.jp